

漫 録

◎勇退した府縣土木課長(一)

路 政 僧



は し が き

這般行はれた行政整理ほど不徹底なものはない、地方官吏の異動にしても名を整理に藉つて憲政會系統に屬する官吏の復活策、否な黨勢を擴張するのであると、色々な話題を供給したのであつたが、事實はそれを裏切つて平凡な異動に過ぎなかつた。在野十年、此間憲政會の内閣組織を夢に觀て、政黨と運命を共にしようと言ふやうな忠義者否な馬鹿者は、此世智辛い世の中にありはしない、昔は憲政會系であると言は

れても今は政友會に、昔は政友系であつても今は憲政系に屬する様に、假裝して旨く世の中を渡つて行くのが現在地方官吏の處世術である。斯く言へば官吏は節操のない、犬侍士の様に聞へるが、現在の政黨政派には何等の主義主張と言ふものが無い、従つて其の集合は烏合の集である、港灣を修築して呉れる河川を縣費支辨に編入して呉れるから、其の間某黨に籍を置くと言ふ様な黨員を基礎とせなければならぬので、其の爲す所言ふ所一も眞を措き難い。官吏も人間である以上は實際息のある間は、飯を喰はなければならぬ動物である

ら、此様な連中と運命を共にするものが無いのは當然である。此心裡状態のもとに活動して居る官吏を、あれは憲政系だ、あれは政友系だと黨派根性で色目鏡をかけて観られてはヤリ切れない。

併しながら其の政黨政派が、巧に土木事業を利用して所謂黨勢の擴張を圖らむとし、一方又官吏は政黨政派に關係は無いが事業慾を満足せしむるが爲に、各種の土木事業を執行して名を爲さむとすることが、相結合して黨派の色分けを受くることゝ爲るのである、今日地方政治に於て最も重要な地位を占め政黨政派と結合して居るものは土木行政である、其の結果として土木行政の衝に當つて居る土木課長が重要な地位を占める譯であつて、技師である土木課長が往々にして田舎政治家と爲る因である、此田舎政治家と言はるゝ土木課長の異動が先般行はれたが、果して政黨政派に無關係で行はれたのであるかは人の評する所に任せ、此異動と同時に勇退した所謂元老土木課長を筆せむとするのが記者の任務である。

勝又愛治郎君

君は明治二年宮城縣に生れ、同三十三年東京帝國大學土木工學科を卒業して直に福井縣技師と爲り、その後山形、北海

道、福島、大阪と言ふ順序で各地に轉じ、大正十年に勅待と爲つたが、大阪に居ること一年有餘で、愛知縣土木課長と爲り這般の整理に勅任の内務技師と爲つて勇退したのである。

明治三十三年から大正十三年まで恰度二十五年間を地方土木事業の爲に盡したことは、多大の感謝を拂はなければならぬ、記者が退官の挨拶に東上した氏を捉へて、在官中の感想を聞けば例の奥齒に物が齧つた様なズーズー辨で、官吏と言ふものは詰らないものである、殊に吾々の如く地方に居て之と言ふ目新しい仕事をした譯もなし、従つて後世に名を残すものもなく、假令又地方の利益と爲るべき事業をしたにしたら處が、夫れは役目で當然のことであつて、民間會社の儲け仕事の如き莫大な報酬を受けるでもなく、精神的物質的兩方面からして満足をする何物も得られないものである、と永年に亘る官吏生活が今から回顧すれば詰らないことを物語つたが、福井縣に在職して居るときは、直轄河川の臺帳調製に苦心して随分内務省の御手傳をしたものである、その外同縣下主要河川の調査を完成して、河川改修計畫を樹立した、その功蹟は福井縣民の感謝せなければならぬ所であらう。殊に治水の最大要件である砂防工事には、在職五年に亘つて苦心施工したもので、當時福井縣の砂防施設が他府縣に範を示した

ことも尠少でない、之も亦氏の著大な功蹟と言つて可い。

更に山形縣に在職中は、従來行はれた國縣道の維持管理方法を改善して多大の功蹟を擧げ、町村事業として各種の土木事業が計畫せらるゝのであるが、其の多くは主任技術者を使役せず、設計其の他計畫の全部を工務所に依頼するが爲に、多額の設計調査費を拂ふに拘はらず、不經濟的な施工方法を採つたり、計畫杜撰なものが多く、町村土木事業を發達せしむる所以でないと言ふことで、町村土木事業の測量設計を始め、施工に就いてまで縣が責任を以て助成する方針を樹て、氏の厄介になつて完成した著大な工事は酒田、新城兩町に於ける町營水力電氣を始めとし、最上川沿岸に於ける畑地及萱生地約一千町歩を新田に開墾した、吉田堰普通水利組合の灌漑水路開鑿工事の如き、又福井縣に於ける小名濱漁港修築工事の如きは、何れも氏の努力の賜である、氏は後世に名を残す仕事はしないと言ふが、是等事業に對する功蹟は物夫れ自身が君の功蹟を地球の存在するまで遺すのであつて、土木事業家は夫れに依つて満足して可いのである。

大阪府及愛知縣に在職中は隨分道路の路線認定に就て苦心し

たものである、大阪府は道路法施行のときで、愛知縣は郡制廢止に伴ふ府縣道路路線認定のときであつた、府縣會は多數の路線認定を希望するが、如何に考へても道路法の規定に適合しないものがあるが、理屈的に出來ない地方政治の情弊と、理屈好きな内務省の中間に立つて隨分苦勞したのであるが、氏は一度決定し主張したことを變更しない點に於て、氏獨特の美點であると同時に稍もすれば世人に反感を求むる缺點であつた、曾て大阪府に在職當時に計畫され



勝又愛郎君

た、阪神國道上に軌道の敷設を許すべきや否やに就いて兵庫縣と見解を異にし、敷設否認論を主張し、高速度車輛の頻繁に通行し得べき道路には軌道を排斥すべきものであるとの論を持ち出し、トウトウ君の在職中は解決しなかつた、こゝ等が容易に意見を變更せざる點が他の土木主任官等と異なる所であつて記者の敬服する所である。

退官後は名古屋市東區東外堀町二ノ七に居を定め、閑地に遊ばれつゝあるが、未だ全然遊び暮しする歳でもない、福井山形に於けると同様の元氣を出して我が土木事業界の爲に盡されたい。

松浦圓四郎君

觀るから元氣潑刺壯者を凌ぐ、君は明治六年の福井産である、明治三十二年東京帝大土木學科を卒業し、直に宮崎縣技師と爲り居ること四年にして、鹿兒島に轉じ、四十四年朝鮮總督府通信技師と爲つたが、大正四年病氣退官し再び土木課長として職に就くに至つたのは同年七月三重縣技師であつた、八年六月新潟縣に轉じ、七年勅待と爲り今回の整理に當つて勅任の内務技師と爲り勇退した人である。

記者は宮崎鹿兒島朝鮮時代のことは知らないが、三重縣時代に於ける君の功蹟は著大なものが多い、各地方に於て土木行政を執行するに最も苦心する處は土木費殊に道路改良費の地方分捕の問題である、三重縣も矢張り同様の情弊に捉はれて代々の土木課長が弱り抜いて居たのであつたが、新任の君が其の情弊を打破して理想的の計畫を樹てたことは今も尙人の話題に上る處である、名古屋築港を如何に計畫しても我が港は天然の利と、加工と相俟て勝るとも劣らざる港灣である

と三重縣人をして意張らしめた四日市港も亦君の在縣當時に



松浦圓四郎君

於ける重大なる工事であつて君の著大な功蹟の一である、今三重縣に君をして在らしめなば、隣縣との協議の下に漸く成立した木曾川の架橋を廢止したり、工事施行中に屬する鈴鹿峠の改修を一年延長したりする様な愚策は探らなかつたであらうと、記者は君の三重縣時代の功蹟を想ふて、今の三重縣の施政を憐むのである、

新潟縣に轉じた君は治水政策の樹立に没頭した、先づ縣下の河川狀態の調査に着手し、之を基礎として二百萬圓の豫算を以て縣下河川改良計畫を樹立したのである、裏日本の地方に旅行する各府縣の土木技術家が、先ず新潟縣を目標として同縣を訪れるのは、君が計畫した河川改良を視察し其の教へを乞はむが爲である、以て君の得意を知るに足る、最近に至つては縣下道路改良の計畫を樹立して主要府縣道二十九路線を選択し、約百里の道路を幅員三間乃至八間に擴張すべき豫算を通過せしめた如きは全く君の努力の結果である。

最近は今警視總監である太田政弘氏の下に、土木課長兼高等政策係りとして縣會の操縦に奔走し、所謂田舎政治家としての活動をしたのであつたが、己れの向ふ所には内務部長

も子供の如く觀へて重大な事件の相談は總て知事直屬に行つたので、事務官連の岡焼に遭つた感がしたが、そこは君一流の無邪氣な言葉で大抵のものは丸めらるゝのであつた。

以上の事實に依つて判るが如く、君の公務のやり方は何でも理想的に一つの大計畫を樹て、遂次に事業を完成せしめむとするのである、若し之を遲疑ならしめむとするものあれば、例のネー、ネーの熱辯を以て貫徹せざるば已まざる意氣がある。先年土木主任官會議に於て常に氏が主張した土木技術家優遇案を提出し、内務技師の優遇にまで言及したので、時の長岡土木局長から内務省のことは御心配に及ばないと、一言の下に刎附けられたが、その時は恰度君は病氣で代理技師を出して居たので問題にはならなかつたが、若し出席して居れば、あの入道頭に湯氣を立て、論戰したであらうとは一般人の想像する所であつた、夫れ程意氣のある快男子である。

口善惡なき童は君を評して「妻君殺し」と言ひ或は「嫖冥加のある男」と言ふが、實に妻君に別るゝこと三回、今の妻君は慥か四人目である今の婦人も亦人並優れた美人であると聞くが、新妻を迎ふるに當つての君の心裡は同情すべきであつて、岡焼連の言ふことは信することが出来ないが、新妻を迎ふる度毎に我が妻たるに必要な要件を説き、その心掛け

を訓示して後結婚すると言ふ話である、其の訓示の文句は奇想天外のもので記者は失念したが、佐上内務省神社長が之を言ふに慣れて居らるゝから其の方に聞き合はして貰ふことゝして筆外に置く。記者は赤倉温泉に一夕を共にしたことがある、あの偉大な體軀に旅館の襦袢を着て、西郷隆盛を歌ふときは上野の銅像そつくりであり、其の追分節に至つては體と妙音を比較して考へずには居られない位である、其の元氣は「從四位勳四等」の名刺をもつて、雪深き新潟の里に隠れることを許さない、帝都の復興は當世氣質の貧弱な技術家に依つて達成することは不可能で君の如き努力家を要求して己まないのである。令夫人と相談して東上斯界の爲に盡して貰ひたい。